

「炎のランナー」 著者 W. J. ウェザビー(米田敏範訳)

Chariots of Fire by William J. Weatherby [絶版]

二見書房(1982発行)690円(233p) [絶版]

紹介者：榎本博康

[紹介]

これは史実に基づく小説であり、映画化されて有名になった。いや、逆に映画台本の小説化かもしれない。1981年アカデミー賞受賞。

1924年、第8回パリ・オリンピックでイギリスの二人の青年が金メダルを取った。スコットランドのエリック・リデルは400メートル、ユダヤ人のハロルド・エイブラハムズは100メートルで。

エリックは宣教師の息子で、彼自身も信仰の道を歩むべく勉強していた。彼の走りは自己流である。彼は100メートルに出場する予定だったが、予選が日曜日なので信仰に従って欠場する。そして400メートルに賭け、見事世界記録で優勝した。後に宣教師として中国に。

一方ハロルドはケンブリッジ大学入学と共に陸上を始め、めきめきと頭角を顕し、さらにコーチにより洗練された走りを完成させていく。しかしコーチを持つことにより、アマチュア資格を疑われる。後に法廷弁護士、ジャーナリストとして活躍の一方で、運動競技会役員としてスポーツにかかわり合い続ける。



[感想]

前回は「炎天のランナー」でしたが、今回は「炎のランナー」です。ここではアマチュアリズムの残照として、二人のランナーを見せてくれます。

まずエリック。彼のランニング・フォームは自己流で粗削りだ。レースの途中で頭がガクンと倒れると絶好調の証拠だ。たった一人でスコットランドの浜辺や丘陵を走ってトレーニングをする。彼のあだ名は「フライング・スコット」。この飛ぶような男は、ハロルドとの対決レースに勝利し、さらに気を緩めることなく精進を続ける。

しかし彼はオリンピックの予選が日曜なのでエントリーを拒否する。彼の宗教は、安息日の労働を禁止しているのだ。イギリスの皇太子とオリンピック委員達（もちろん貴族）から出場するように説得されたが、ついに意志を変えなかった。

この説得は、既にオリンピックが国家の威信を背負うものであったことを示している。一方、エリックは信仰を持ち、それに忠実であった。私はこれを宗教ゆえの問題ととらえるのではなく、個人の価値観の問題として理解したい。人がアマチュアリズムを標榜するならば、必ずレースに勝る価値あるものを持っているはずである。まして我々趣味のランナーは、である。

次にハロルドだが、彼が何故ケンブリッジに入学できたか。それは第1次世界大戦で将来の

エリートたる若者達が大量に死んだからだと話は始まる。しかしユダヤ人ゆえの深刻な差別がある。やがて彼のランニングの才能が理解され始めると、次のオリンピック選手、そしてゴールド・メダリストをケンブリッジから出せるという期待から、彼は受け入れられる。

ハロルドはエリックに破れ、自分のランニングを科学的にトレーニングし、高める必要を感じる。彼はプロのコーチであるサム・ムサービーに師事する。しかし、ケンブリッジでは、紳士のスポーツとしてのアマチュアリズムの不文律を破ることと非難された。

本当のアマチュアであれば、エリックのように、スポーツに優先する価値あるものがあるはずだし、周囲もそれを尊重すべきだ。しかし、それは組織の名誉や国家の名誉にすり替えられていく。一方、ハロルドのように勝利に専念しようとする、それぞれで非難される。それが当時のイギリスであった。

このような事情はさて置き、ランニングの描写は迫力がある。短距離走なので、全力で若いエネルギーを爆発させるのは、読んでいて非常に気持ちが良い。短距離走もいいなと思う。

またサムのトレーニングも面白い。よくカンフー映画に出てくる老師匠のようでもある。またイメージ・トレーニングを重視している。独創的なコーチだ。

先日の世界陸上で、やはりイギリスの走り幅跳びの選手が、以前の大会で日曜日のエントリーを辞退したと紹介されていたが、エリックの伝統は未だ続いているようである。

この本は絶版であり、洋書も絶版である。ただ映画のビデオなら入手可能らしい。

(1997. 11. 20)

[リバイバル感想]

DVDは買えるようだが、本は運が良ければ中古が手に入る。結構良い作品だと思うのだが、映画に飲み込まれてしまったということか。

プロアマ論争は、最近ではすっかりと影を潜めてしまった。オリンピックに出場するには、組織的な科学トレーニングと生活管理が必須であり、旧式のアマチュアでは太刀打ちができない。

私が子供の頃に、ビジネスとして成立（選手がかなりの報酬を得られるスポーツ）はプロ野球の他は、主に格闘技系（相撲、ボクシング、プロレスリング）だったように思う。そしてアマチュアスポーツは実業団に所属するという形だ。この実業団というシステムが有効であったらしい。

既に子供では無いある時、神宮外苑の絵画館周回コースをジョギングしていたら、そこを練習場所として使っているらしい実業団ランナー達が「どけどけ」と叫びながら追い抜いて行った。目標タイムが厳しく設定されていたのだろうが、実はどうもそれ以来、その会社のイメージが余り良くない。そんなことで企業イメージを左右させることでは無いとは思うのだが。

[2020. 6. 05]

Copyright © Enomto PE Office, All rights reserved.

RR009-1